

重度の人達の自立を支援をする会



10周年記念講演

講師：児玉真美氏

参加は無料です

重い障害のある人の「いのち」
～いま世界で起こっていること～

2017年 6月24日(土)
14:00～16:00
受付・開場 13:30～



日本ガイシフォーラム
レセプションホール
名古屋市南区東又兵衛町5-1-16

「重い障害のある生は、治療に値しない、生きるに値しない」という価値観の広がり、世界の医療は重症児者にとって、とても恐ろしいものになりつつある。そして着実に日本にも及んできている。

重い障害を持つ「うちの子」「どうせ何もわからない」だから無益な治療はいらないとされてしまっていると児玉さんは発信されています。重度の障害児者の親達は多かれ少なかれ病院でこういった現実にはぶつかっているのではないのでしょうか。今、共に生きている私達だから言える事や思う事を児玉さんと一緒に学び、伝えていきたいと思えます。

— 略 歴 — 児玉真美 (こだま・まみ)

1956年生まれ、広島県在住。京都大学卒業。

米国カンザス大学にてマスター取得

英語の教師(高校・大学)として勤務の後、現在、翻訳・著述業

1987年生まれの子に重症重複障害がある

— 著書 —

『私は私らしい障害児の親でいい』(ぶどう社)

『アシュリー事件—メディカル・コントロールと新・優生思想の時代』(生活書院)

『海のいる風景—重症心身障害のある子どもの親であるということ』(生活書院)

『死の自己決定権のゆくえ—尊厳死・「無益な治療」論・臓器移植』(大月書店)

・主な訳書 バンティング『春待つ家族』(講談社)

ブレットソー『天使の人形』(偕成社)ほか

・共訳書 アリシア・ウーレット『生命倫理学と障害学の対話—障害者を排除しない生命倫理へ』(生活書院)

2006年7月から2015年5月まで雑誌『介護保険情報』(社会保険研究所)に連載「世界の介護と医療の情報を読む」を執筆

2015年7月からウェブ・マガジン「地域医療ジャーナル」に記者として執筆中。現在のブログは『海やアシュリーのいる風景』

主催 重度の人達の自立を支援する会 ぽーし

後援 社会福祉法人名古屋キリスト教社会館 ・活動センターねーぶる・生活支援センターぴぽっと

・ホーム社会館 ・活動センターねーぶる家族会 ・ホーム社会館家族会

問い合わせ先 10周年記念行事実行委員会 電話 880-2854 mail:support2_nagoya@yk.commufa.jp